

全学教養・海外研修科目報告書

記入 | 2017年 10月

所属&学年 | 工学部 3年生

| | |
|-------------|----------------|
| 留学先大学 (国名) | モンゴル |
| 短期研修のプログラム名 | アジア現代事情・モンゴル研修 |
| 留学した期間 | 2週間弱 |

1. 研修前の準備 (応募のきっかけや動機、申込までの準備や手続、名大での授業で行った準備)

今回私は、友人二人に誘われて河嶋先生のモンゴル研修に関するお話を伺い、モンゴルには広大な草原やゲルでの生活など、他の国では経験できないことがたくさんあると知り、ここで参加しなければ一生行くことができないのではないかと考え参加を決めました。

研修前には数回名古屋大学でモンゴル語の講義や、自身の研究テーマの調査の進捗状況の発表が行われました。これらのおかげで事前にモンゴルの文化や社会的な背景を知ることができ、大変ためになりました。また、他の参加者の話や資料を見ることで、研究の方法や資料の作り方等を学ぶことができました。

2. 研修内容 (内容、授業の感想、印象的だったことなど)

研修は大まかに、ウランバートル市外と市内の研修に分かれました。

研修の前半は市外で過ごし、特に印象的だったのはやはり遊牧民の生活体験でした。遊牧民の方々の素朴ながら力強い生活を経験できたことは大変貴重だったと思います。

研修の後半は市内で様々な先生方のご講義や、施設の見学を経験しました。非常に様々な分野の話を伺うことができ、さらに参加者それぞれが自分の研究テーマの内容を深めるために積極的に取材をする経験もできました。

3. 生活 (住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど)

特に前半のウランバートル市街での生活は日本とかなり違いが大きく、特に食事はヤギや羊といった食べられない肉が中心でした。したがって、食べる量に関してはほどほどに控えることが大切でした。

また、一日の中での気温の変化も大きいため風邪をひくなど体調を崩しやすく、日本で飲み慣れた薬を持っていくべきだと感じました。

4. 危機管理 (身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど)

ウランバートル市内ではすりが多く存在し、実際に後をつけられ、リュックサックを触られるといった状況にも遭遇しました。基本的に夜は町に出るのを控え、出る場合は手荷物を極力減らしてターゲットにならないことが求められると思います。

5. 留学を終えて感じること・全体的な振り返り

モンゴルでの研修を終えて、多くの新しい経験をすることができたなと感じています。一番印象的なのはやはり遊牧民のお宅での生活であり、この研修が無かったら人生で経験することはできなかったと思います。その他にも、研究課題を設定しそれに向けてフィールドワークを含めて調査するといった活動はなかなか日常生活の中ではできないので、今回の研修を通してその技術を身に着けることができたのは自分にとって大きな成長でした。

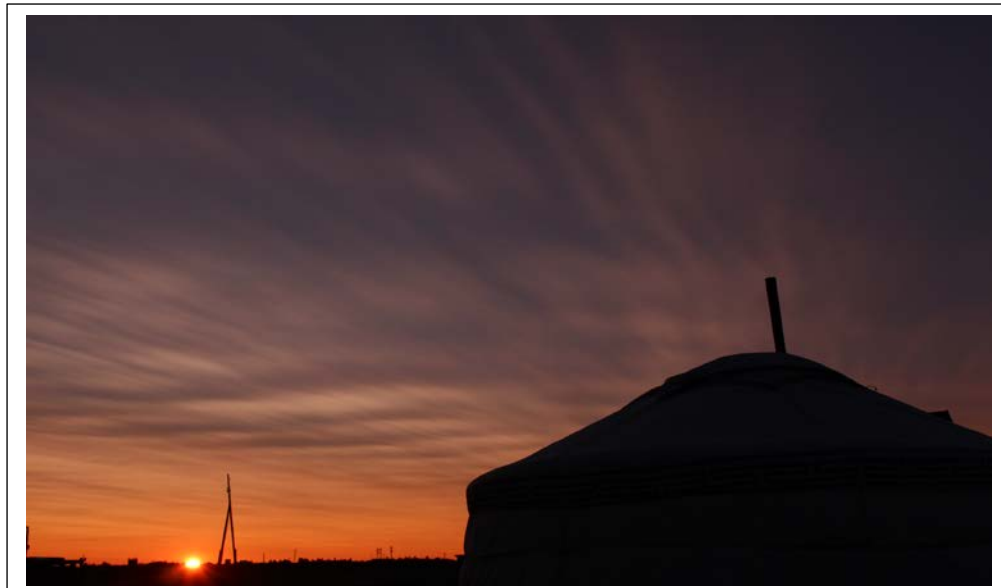
6. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

| 内訳 | おおよその額 | 備考 |
|----------------|------------------|------------------------|
| 航空運賃 | 130,000 円 | |
| 海外旅行保険 | 14,190 円 | |
| 渡航先プログラム料 | 130,000 円 | 授業料、一部食費、移動費、宿泊費、入場料など |
| 食費 | 10,000 円 | |
| 交通費 | 5,000 円 | |
| その他（小遣い、通信費など） | 1,2000 円 | |
| 計 | 301,190 円 | |

自由記述欄 *現地のおすすめ情報や留学エピソードなどご自由にご利用ください。写真添付なども歓迎します。

↓↓↓

私が現地で見ただけのもので最も感動したのは、遊牧民のお宅で見た星空でした。周りに光がないうえ、高い建物や山もないため、空一面に広がる星空を楽しむことができました。また、朝日、夕日も美しく、ゲルとの組み合わせが印象的で、写真を撮るのが楽しかったです。



全学教養・海外研修科目報告書

記入 | 2017年 10月

所属&学年 | 工学部 1年生

| | |
|-------------|----------------|
| 留学先大学 (国名) | モンゴル |
| 短期研修のプログラム名 | アジア現代事情・モンゴル研修 |
| 留学した期間 | 2週間弱 |

1. 研修前の準備 (応募のきっかけや動機、申込みまでの準備や手続、名大での授業で行った準備)

事前調査では、モンゴルに関して書かれた資料が少ない上、見つかった資料が古かったりして苦労した。

2. 研修内容 (内容、授業の感想、印象的だったことなど)

遊牧民がテレビを持っていたり、スマートフォンを使っていたり、モンゴルに行く前に想像していたよりも現代的な暮らしをしていたことが衝撃的であった。移動手段として、馬も使うが、自動車も使っているなど、様々な場面で伝統的な方法と現代的な方法を両方とも取り入れて生活している様子が、不思議な光景で興味深いと思った。

3. 生活 (住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど)

生活環境は行く前に想像していたものより随分よかった。ただ、慣れない食材を使った料理が多いので体が対応できないこともあり、体調を崩す人が多かった。日本から少し普段食べているお菓子を持って行ったことは、ご飯が口に合わずあまり食べられなかった時に、小腹を満たすのによかった。

4. 危機管理 (身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど)

スリには十分気をつけるべきだと感じた。研修のメンバーの中でも道を歩いていた時に背負っていたバッグのチャックを開けられて一瞬冷やっとしたことも。幸い、チャックを開けられている時に開けられたことに気づいたので、何も盗られることはなかった。

5. 留学を終えて感じること・全体的な振り返り

まだまだ、知らないことが世界にはたくさんあるということが身にしみて感じられた。また、事前に調べて行ったことと、現地の様子が全く異なっていることが多々あり、実際に現地に足を運んで自分の目で確かめることがいかに大切かということも学んだ。自分が今回モンゴルに実際に行って様々な経験ができて本当によかったと思う。今回の留学を終えて、もっと世界中いろいろな場所に行って様々なものを見たり経験をしたりしたいと強く思うようになった。

6. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

| 内訳 | おおよその額 | 備考 |
|----------------|-----------|------------------------|
| 航空運賃 | 円 | |
| 海外旅行保険 | 円 | |
| 渡航先プログラム料 | 130,000 円 | 授業料、一部食費、移動費、宿泊費、入場料など |
| 食費 | 円 | |
| 交通費 | 円 | |
| その他（小遣い、通信費など） | 円 | |

自由記述欄 *現地のおすすめ情報や留学エピソードなどご自由にご利用ください。写真添付なども歓迎します。

↓↓↓

遊牧民のお家で夜に見た星空が、今まで見た中で一番美しい星空であった。ゲルを出ると360度星空が広がる様子はまるで巨大なプラネタリウムを見ているようだった。ゲルから外に出て見た星空は「言葉では表現できない」とはこういうことを言うんだなって思ったほど美しかった。

全学教養・海外研修科目報告書

記入 | 2017年 10月
所属&学年 | 法学部 1年生

| | |
|-------------|----------------|
| 留学先大学 (国名) | モンゴル |
| 短期研修のプログラム名 | アジア現代事情・モンゴル研修 |
| 留学した期間 | 2週間弱 |

1. 研修前の準備 (応募のきっかけや動機、申込までの準備や手続、名大での授業で行った準備)

これまで海外に行ったことがなく、海外には新たな価値観や考えたことのないことなどに出会えるだろう、という期待があり、本プログラムに申し込みました。申し込みでは、パスポート発行に時間がかかりました。手続きにパスポートのコピーが要るので、それに間に合わせるのが大変でした。

名大では、モンゴルの文化や歴史、憲法などの事情についての授業と、フィールドワークについての授業、モンゴル語の授業がありました。なかなか学ぶ機会のないものに触れることができました。また、自分の事前調査の中途報告などの発表がありました。調査の行き詰まりがあったり、意外な発見があったりして、調査が思い通りにいかなかったことが、楽しくもあり大変でもありました。

2. 研修内容 (内容、授業の感想、印象的だったことなど)

モンゴルに到着後、すぐに草原地域へ移動し、ゲルでの生活をしました。遊牧民の生活では、都市とは違って不便ではあるものの、自然と共存することや家族と団らんすることなどの楽しさを感じることができました。

首都ウランバートルに戻ってからは、モンゴル国立大学、モンゴル生命科学大学、農業大学の講義、憲法裁判所訪問などありました。講義では、モンゴルの現状や、先生方の問題意識や視座を聴き、新たに考えさせられることが多くありました。

また、市内ホームビジットや舞踊鑑賞などの楽しみもありました。身の回りがすべて新鮮で、世界にこんな場所があるのか、と思うような驚きがたくさんありました。

3. 生活 (住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど)

草原地帯では、昼は暑く、夜は寒い、といった気候でした。寒いときに上から着るセーターやジャケットが活躍しました。食に関しては、個人的にはおいしかったと思います。ただ、脂分が多く、おなかを下してしまうこともあったので、量を調節して食べるようにしました。

4. 危機管理 (身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど)

なるべく貴重品を服の内ポケットにしまったり、リュックが触られていないかに注意したりして、スリに気を付けました。また、必ず二人以上で行動することや、少しでも困ったら現地用の携帯を使うことなどに気を付けました。

5. 留学を終えて感じること・全体的な振り返り

留学をする際に、しっかりとした目的を持つことの大切さを感じました。研修中、それぞれが自分の調査のために、現地の人とアポを取ったり、興味に沿って調査をふかめたりしていて、積極的に行動していました。このように興味を究めていく活動は、娯楽目的の海外旅行ではなかなかできないものだと思います。そして、目的をもった海外渡航は、後になって自分のなかで大きな思い出となることもわかりました。

また研究活動は必ずしも自分の思った通りに進まないということを学びました。自分は、出国前に考えていたテーマが、現地へ行ってみると意外と重要な問題ではなく、異なるテーマに出会い、そちらを深めていくことになりました。このような体験から、研究活動では予想を裏切られることがあり、また、そのような発見もまた喜ばしいものなのだと感じました。

6. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

| 内訳 | おおよその額 | 備考 |
|----------------|-----------|------------------------|
| 航空運賃 | 132,400 円 | |
| 海外旅行保険 | 12,090 円 | |
| 渡航先プログラム料 | 130,000 円 | 授業料、一部食費、移動費、宿泊費、入場料など |
| 食費 | 5,500 円 | |
| 交通費 | 円 | |
| その他（小遣い、通信費など） | 20,000 円 | |
| 計 | | 299,990 円 |

自由記述欄 * 現地のおすすめ情報や留学エピソードなどご自由にご利用ください。写真添付なども歓迎します。

遊牧民と生活できるなんて、この先人生であるか分かりません。とても貴重な体験ができました。

全学教養・海外研修科目報告書

記入 | 2017年 10月

所属 & 学年 | 農学部 3年生

| | |
|-------------|----------------|
| 留学先大学 (国名) | モンゴル |
| 短期研修のプログラム名 | アジア現代事情・モンゴル研修 |
| 留学した期間 | 2週間弱 |

1. 研修前の準備 (応募のきっかけや動機、申込までの準備や手続、名大での授業で行った準備)

モンゴル研修に興味を持ち始めたきっかけは、先生にモンゴルの写真を見せていただいたことです。その草原の広さと美しさにとても惹かれるものがありました。この研修では実際に遊牧民の生活を体験できるということでしたので、めったにできないチャンスだと思いました。また、私は環境問題に興味があったので、首都のウランバートルでの大気汚染が深刻だと知り、調査してみたいと思いました。学部の授業との兼ね合いもあり、とても悩んだのですが、先生にお話を伺ったり、モンゴルのことを調べていくうちに、やっぱり自分の目でモンゴルを見てみたいと思い、応募を決意しました。

名大での事前授業では、現地でのフィールド調査に向けて計画を立てたり、モンゴルの歴史や文化、環境、法律などについて学びました。モンゴルに関する知識が薄い私にとって、渡航前にモンゴルのことを知る良い機会をいただけたなと思います。モンゴルをよくご存じの、元モンゴル大使の城所先生やモンゴル人留学生の方に、モンゴル語やモンゴルでの生活などについて教えていただけたことは、渡航前の強みになりました。

2. 研修内容 (内容、授業の感想、印象的だったことなど)

今回訪れたハラホリンは、モンゴルのかつての首都がおかれていたところでしたが、今はのどかな風景が広がる村でした。世界遺産のエルデニ・ゾーやカラコルム博物館の見学でその地の歴史に触れました。遊牧民宅でのホームステイでは、遊牧民の生活を現場で見ながら、実際にその仕事の一部をさせていただいたりして、とにかく新鮮で刺激的でした。実際に体験したことは、牛の乳しぼり、食事の準備や片付けの手伝い、乗馬などです。乳しぼりは女性が行っていましたが、想像以上に力仕事でした。搾りたてのミルクは最高でした。また、馬に乗って草原を駆け抜けた爽快さは忘れません。遊牧民宅にいた子供達や、飼い犬達ともたくさん遊びました。ホームステイ中にちょうど近くのお宅で結婚式が行われ、幸運なことに、私たちも参加させていただきました。呼ばれた者は、お土産を渡すか歌を歌うというしきたりがあって、私たちも日本の歌を披露しました。まさかモンゴルで「森のくまさん」と「君が代」を歌うことになるとは夢にも思いませんでした。ヤギの解体にも立ち会うことができました。血の一滴まで余すことなく使われていたことが印象的でした。ストーブの燃料も家畜の糞を乾燥させたもので、ほとんどすべて自給自足の生活でした。自然と共生しているということが実感できる生活でした。

一方、現在の首都ウランバートルは都会そのものでした。都会と地方の差が激しかったです。車の交通量がとても多く、車間距離数センチ、割り込み当然、しょっちゅうクラクションが鳴っている、といった世界でした。研修中ずっとお世話になったバスの運転手さん始め、現地の方はこのような状況でぶつかることなく走っていて、運転が上手いなあと感心しました。

日本人がここで運転したら絶対に事故するだろうと思いました。ウランバートルでは、現地大学で講義を受けたり、日本人墓地やザイサン丘を訪れ、日本とモンゴルの関係の歴史を肌で感じる機会を得たりと、大変貴重な勉強をさせていただきました。

市内ホームビジットの日には、現地大学生のバディさんが市内を案内してくださいました。バディさんのお宅にもお邪魔しました。普段の生活の様子を伺い、現地の大学生の勤勉さに感心させられました。将来の目標をちゃんと持っていて、こつこつと熱心に勉強されていました。自分ももっと頑張ろうと、やる気をもらうことができました。また、現地の人は気質が穏やかだなあと感じました。苛立っているようなところを見ることはなく、皆いつも優しくかったです。

3. 生活（住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど）

ウランバートルのホテルはとても良いホテルでしたが、それでもトイレの水が流れにくい時がありました。また、トイレトーパーが補充されませんでした。（遊牧民宅でのホームステイ用に持って行ったトイレトーパーが余っていたので、それを使用しました。）

水道の蛇口が、日本では赤色だとお湯、青色だと水のイメージがあると思いますが、モンゴルでは(少なくとも私が行ったところでは)それが逆でした。シャワーの時に数分間水の方をひねったまま、お湯が出てくるのを待って寒い思いをしました。

遊牧民宅でのホームステイの時は、水道なしの生活になるので、ウェットティッシュ(手用、体用、顔用)はかなり役立ちました。夜は外が真っ暗で懐中電灯がないと出れなくなります。私は忘れてしまったので、友人に借りていました。

食事について、私は渡航中、お腹をこわすことはなく、基本3食おいしくいただくことができました。ホテルの朝食はビュッフェ形式で、食べやすい洋食が多く、野菜やフルーツもたくさんとれるので好きでした。モンゴル料理は肉と小麦が中心なので、野菜類がとれるときはたくさんとるよう心掛けました。遊牧民宅では、モンゴルの伝統料理をひとつとり頂くことができました。ホーショールという揚げ餃子のようなものを、作るのを手伝わせてもらったのも楽しかったです。味付けはシンプルな料理ばかりで、素材の味を活かした料理でした。薄味が好きな私は嬉しかったです。羊肉は普段食べ慣れてませんが、臭みも気にならず、思っていたより食べやすいと感じました。

4. 危機管理（身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど）

食事に関しては、食べ過ぎないように気を付けました。いくらお腹が強いといっても、普段食べ慣れないものを食べていると胃が疲れると思います。脂もの、肉料理などが続いた後は、軽い食事にするなど心掛けていました。また、温かい飲み物を積極的にとりました。野菜があまり取れないと聞いていたので、紙パックの野菜ジュースを少し持って行きました。ホテルでは、部屋に電気ケトルがあったので、水道水を沸かして飲みました。うがいの時も、最後はできるだけ水道水ではなく、沸かした水か飲み水でしていました。

乾燥が気になったので、寝るときにマスクをしていました。

スリ防止として、現地での行動時はショルダーバックで、荷物が体の前にくるようにしました。リュックの時は前掛けにして持ちました。財布は普段使っているものと同じものを持って行ったのですが、現地でするときはもっと薄くて、目立たない入れ物を使った方が安全だし、持ち運びもしやすかったのではないかと、少し後悔しました。

交通量の多い道路を横断する時は少し勇気がいりましたが、現地の人について渡るとスムーズでした。

5. 留学を終えて感じること・全体的な振り返り

今までモンゴルは遠い存在で、私はモンゴルのことをあまり知りませんでした。しかし、今回実際に現地研修に行く機会をいただいて、よりモンゴルを近くに感じることができるようになりました。モンゴルに広がる草原地帯とそこで過ごす遊牧民の方々と出会い、普段の自分の生活とかけ離れた、大自然の中での自給自足の生活に触れ、このような生き方もあるのだと、世界が広がりました。全然不便だとは感じられず、自然に囲まれて心がとても満たされました。そして、水や資源の大切さであったり、人とのコミュニケーションであったりといった、今の日本の恵まれすぎた環境下では忘れがちになってしまっていることについて、改めて気づかせてもらえた気がします。モンゴルという異国に行ったことは、日常生活を見直すきっかけにもなりました。今後も機会があれば積極的に異文化に触れ、自分の考え方を広げていきたいと思いました。

現地に行って学ぶことができるこの研修では、授業や文献調査だけでは得られない、現地の実情を自分の目で見て、感じて、吸収することができます。この経験を今後の人生にも生かすとともに、周りの人にも伝えていき、モンゴルと日本との関係をより身近なものにしていけたらいいと思います。

6. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

| 内訳 | おおよその額 | 備考 |
|----------------|----------------|------------------------|
| 航空運賃 | 132,400 円 | |
| 海外旅行保険 | 12,090 円 | |
| 渡航先プログラム料 | 130,000 円 | 授業料、一部食費、移動費、宿泊費、入場料など |
| 食費 | 5,500 円 | 団体行動で使った食費など |
| その他（小遣い、通信費など） | 12,525 円 | 個別行動で使ったお金、お土産代 |
| 計 | 292,515 | 円 |

自由記述欄 *現地のおすすめ情報や留学エピソードなどご自由にご利用ください。写真添付なども歓迎します。

↓↓↓

ウランバートルの劇場で観た伝統音楽の鑑賞では、高い声と低い声を同時に出す、遊牧民でも限られた人しかできないという歌い方である「ホーミー」を聞くことができたり、馬頭琴の演奏、各地方の伝統的な踊りなどが盛りだくさんで、とても見ごたえがありました。

同じくウランバートルにあるモンゴル国立博物館には、各地方によって異なるゲルや伝統衣装などの展示があり、それぞれ特徴があって見ているだけで楽しめるものでした。

ハラホリンで訪れたエルデニゾーには、寺院の中に激しい神様や穏やかな神様など様々な神様が祭られていて、それぞれ表情に違いがあったり、しぐさや持ち物に意味があることを伺い、興味深かったです。

遊牧民宅で頂いたハーブティーやミルクティーがとても優しくほっとする味でした。草原一面に生えたハーブはとても良い香りでした。

草原で見る満点の星空は最高でした。もうこんなにたくさんの星が見られるのは最初で最後なんじゃないかと思うくらいでした。私はモンゴルで流れ星を人生で初めて見ることができ、個人的にとっても嬉しかったです。

全学教養・海外研修科目報告書

記入 | 2017年 10月

所属&学年 | 工学部 3年生

| | |
|-------------|----------------|
| 留学先大学 (国名) | モンゴル |
| 短期研修のプログラム名 | アジア現代事情・モンゴル研修 |
| 留学した期間 | 2週間弱 |

1. 研修前の準備 (応募のきっかけや動機、申込までの準備や手続、名大での授業で行った準備)

私は以前から国際交流や異文化理解に関心を持っていた。この研修で遊牧文化を実際に体験できると知り、とても貴重な経験だと思い研修に応募した。ビザなどは不要だったので主な手続きは航空券と保険の加入だった。渡航前の授業ではモンゴル語、モンゴルの歴史や文化などを学んだ。

2. 研修内容 (内容、授業の感想、印象的だったことなど)

特に印象的だったのはやはり二日間の遊牧民宅へのホームステイである。何千年も続いている遊牧文化はモンゴル人の力強さそのものであると感じた。またこのホームステイでは改めて日本での生活を見直すきっかけにもなった。

3. 生活 (住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど)

空気がとても乾燥していたので保湿クリームやマスクなどを持参したほうがよかったと思う。モンゴルの食事は日本人にとって脂っこいものが多かった。食べすぎ、お腹の冷えに注意すること、腹痛になった時のために正露丸やその他の薬を持参することが必要であると思う。

4. 危機管理 (身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど)

幸いにもウランバートルでは危険な目に合うことなく過ごすことができた。しかし、夜の外出は控える、治安のよくない地区には行かないようにするなど気を付ける必要があると思う。そのようなところでどうしても行きたい場合は現地の方に相談し、一緒に来ていただくようにすれば危険な目に合うリスクは少ないのではないかと思う。

5. 留学を終えて感じること・全体的な振り返り

本研修では実際にモンゴルに行って各学生がそれぞれのテーマの調査を行った。日本で知ることができる情報とは異なっているものも多く、これはモンゴルでは急速な変化が起こっているからではないだろうか。現地の方々や日本の方々のご協力のおかげで現地に行かないとわからない多くのことを学ぶことができたと思う。とても意義深い研修であった。

6. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

| 内訳 | おおよその額 | 備考 |
|----------------|----------------|------------------------|
| 航空運賃 | 130,000 円 | |
| 海外旅行保険 | 16,000 円 | |
| 渡航先プログラム料 | 130,000 円 | 授業料、一部食費、移動費、宿泊費、入場料など |
| その他（小遣い、通信費など） | 20,000 円 | |
| 計 | 約 30 万円 | |

自由記述欄 *現地のおすすめ情報や留学エピソードなど自由にご利用ください。写真添付なども歓迎します。

↓↓↓

本研修ではハラホリンとウランバートルを訪れた。そこでそれぞれの場所で印象的だったことについて書いていきたい。

本研修はハラホリンでの遊牧文化の体験から始まった。モンゴルの習慣や文化、モンゴルの人々の性格などは遊牧文化から来ているものが多くあり、実際に遊牧民の生活を体験できたことはとても貴重な経験であった。遊牧民の方々とはお互いの言語は話せなかったが、とても温かく迎えてくださり多くのことを教えていただいた。大自然中で生活する遊牧民にとって生活していくためには助け合いが不可欠だったと聞いていたが、ホームステイを通して遊牧民の方々の優しさを改めて実感した。そして、ハラホリンではとてもきれいな星空を見ることができた。モンゴルは空気が乾燥しており、高度も高く、土地が開けていて地上の光もないため天体観測にとっても適している。日本では見るできないような星空はとても感動的であった。

ウランバートルでは博物館、憲法裁判所、国立大学など様々な場所を訪れた。その中でも特に印象的だったのは日本人墓地である。日本人墓地は第二次世界大戦後、モンゴルで抑留されたまま亡くなられた日本兵の遺骨を葬られていた場所で慰霊碑と記念堂が建てられている。私はここに行くまで日本人捕虜がモンゴルに行っていたことを知らなかった。終戦から 70 年以上たちいろいろなものが薄れていってしまう中で改めて戦争について知ることができ、とても多くのことを学んだと思う。現在桜の樹林を行い公園として整備を進めているということだった。もしモンゴルにまた行くことがあればぜひもう一度訪れたいと思っている。日本人墓地のほか印象に残っているのはモンゴル民族博物館である。ここは石器時代から現代まで使われていた道具や住居などが展示されており、モンゴルの歴史についてよく知ることができる。特に民族衣装は各地の様々な種類が展示されておりモンゴル国の多様性について知ることができた。

本研修では多くの場所でモンゴルの国について知ることができ、とても実り多いものであった。今後さらに日本とモンゴル、名古屋大学とモンゴルの交流がさらに深まっていくことを願っている。



全学教養・海外研修科目報告書

記入 | 2017年10月21日

所属 & 学年 | 情報文化学部 3年生

| | |
|-------------|----------------|
| 留学先大学 (国名) | モンゴル |
| 短期研修のプログラム名 | アジア現代事情・モンゴル研修 |
| 留学した期間 | 2週間弱 |

1. 研修前の準備 (応募のきっかけや動機、申込までの準備や手続、名大での授業で行った準備)

海外留学入門セミナーで本研修に興味をもちました。変動の渦中にある社会や遊牧民の暮らしについて深く知りたいと思い、申し込みを決めました。事前授業では、モンゴル国の歴史、モンゴル語、現地での過ごし方について学びました。調査活動も同時に進め、文献などで情報を集めて活動の進捗を交流しました。

2. 研修内容 (内容、授業の感想、印象的だったことなど)

環境、法、産業、歴史など、様々な視点からモンゴル国への理解を深めました。研修だからこそ拝聴できた貴重な講義も多くありました。研修全体では、遊牧民宅での生活体験が特に印象的でした。家畜と共に広大な草原で営まれる遊牧民の生活は、人間と自然環境の間で調和が保たれているように感じました。日本での暮らしを改めて見つめ直し、システムや風土への主体的な態度を取り戻すきっかけになりました。

3. 生活 (住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど)

体調へもっと気を配るべきでした。珍しくて新鮮な食べ物につられ、つい食べ過ぎてしまい、胃腸風邪になりました。旅先で体調も万全ではないため、体はいつも以上に労わるべきだと学びました。

4. 危機管理 (身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど)

周囲に気を配るようにしていました。特に夜道ではすりや引ったくりに警戒していました。しかし、行動を共にしていたにも関わらず、メンバーの一人がすりに遭いかけました。いくら警戒しても、犯罪には警戒しすぎることはないのだと身をもって学びました。

5. 留学を終えて感じること・全体的な振り返り

考え方や感覚は生活する環境に大きく依存しているということを感じています。モンゴルでふれた現地の生活と帰国後の生活を比べて、それぞれに当たり前の感覚があり、それが私たちの意識の土壌になっていることを自覚させられました。

6. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

| 内訳 | おおよその額 | 備考 |
|----------------|------------------|------------------------|
| 航空運賃 | 100,000 円 | |
| 海外旅行保険 | 10,000 円 | |
| 渡航先プログラム料 | 130,000 円 | 授業料、一部食費、移動費、宿泊費、入場料など |
| 食費 | 5,000 円 | |
| 交通費 | 3,000 円 | |
| その他（小遣い、通信費など） | 110,000 円 | この内、予防接種代金が 100,000 円弱 |
| 計 | 358,000 円 | |

自由記述欄 * 現地のおすすめ情報や留学エピソードなどご自由にご利用ください。写真添付なども歓迎します。

↓↓↓

- ・脂の多い食事には警戒するべきでした。
- ・海外に限ったことではないですが、現地の博物館や美術館にはできるだけ足を運ぶと良いと感じました。自分の関心のある事柄への知識が一層深まりました。
- ・言葉が操れなくとも意思の疎通は可能でした。相手の意図が理解でき、自分の意思も伝わっているような気でいればなんとなく会話ができました。
- ・やってみたいことがあれば、身を乗り出してアピールすべきだと感じました。特に、非日常的な環境は多くの経験を得るチャンスに恵まれているので、このことを留意したいです。
- ・日本食のレストランでは、海外の方が抱く日本のイメージを感じとることができ、楽しかったです。

全学教養・海外研修科目報告書

記入 | 2017年 10月

所属 & 学年 | 経済学部 1年生

| | |
|-------------|----------------|
| 留学先大学 (国名) | モンゴル |
| 短期研修のプログラム名 | アジア現代事情・モンゴル研修 |
| 留学した期間 | 2週間弱 |

1. 研修前の準備 (応募のきっかけや動機、申込みまでの準備や手続、名大での授業で行った準備)

説明会での先生方のお話や写真を見て、ここに行きたいと思い参加を決意しました。名大での授業では情報収集がうまく出来ず、ぎりぎりになってテーマを変えることになってしまいました。必要な資料の有無を確認してからテーマを決定するべきだったと後悔しています。

2. 研修内容 (内容、授業の感想、印象的だったことなど)

個人ではなかなか経験することが出来ない様々な体験をすることが出来ました。特に遊牧民宅での思い出はこの先忘れることはないと思います。ただ、1日だけ体調を崩して研修に参加出来なかった点でその点が心残りです。体調管理が十分に出来ませんでした。

3. 生活 (住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど)

モンゴル到着後数日は何を食べてもおいしかったです。特に食べられない物はありませんでした。ただ、食べ過ぎてお腹を壊してからは臭いに敏感になってしまって食べられなくなってしまった物もあります。日本と比べて物価が安かったので渡航前に思っていたよりもお金が掛からずに過ごせました。

4. 危機管理 (身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど)

夜に道を歩いているとき後ろに背負っていたリュックのチャックを開けられることがありました。幸い、すぐに気がついて何も盗られることは無かったですが一瞬ひやりとしました。その後は荷物を前に抱えるなど目の届く状態にしておきましたが荷物管理の重要性を強く感じました。

5. 留学を終えて感じること・全体的な振り返り

12日間は思っていたよりも短く、あっという間でした。こんなに楽しいならもっと前から海外に行けば良かったと思っています。今回の研修でモンゴル以外の国にも興味がわいたので今後はもっといろいろな国を訪れていきたいと思っています。

6. 研修費用 (さしつかえなければおおよその金額を教えてください)

| 内訳 | おおよその額 | 備考 |
|-----------|----------|------------------------|
| 航空運賃 | 150,000円 | |
| 海外旅行保険 | 16,000円 | |
| 渡航先プログラム料 | 130,000円 | 授業料、一部食費、移動費、宿泊費、入場料など |

| | | |
|----------------|----------|------------------|
| 食費 | 5,000 円 | |
| 交通費 | 700 円 | |
| その他（小遣い、通信費など） | 43,900 円 | スーツケース等のレンタル料を含む |
| 計 | | 345,600 円 |

以上

全学教養・海外研修科目報告書

記入 | 2017年 10月

所属&学年 | 工学部 3年生

| | |
|-------------|----------------|
| 留学先大学(国名) | モンゴル |
| 短期研修のプログラム名 | アジア現代事情・モンゴル研修 |
| 留学した期間 | 2週間弱 |

1. 研修前の準備 (応募のきっかけや動機、申込までの準備や手続、名大での授業で行った準備)

留学というものに興味があり、説明会に行ったところ、モンゴル研修の話にすごく惹かれました。海外旅行は経験あったのですが、自分でテーマを決めて調査を行うといったことは初めてだったので、迷いましたが、思い切って応募しました。ただ、自分は成績が良くなく、奨学金をいただけなかったのもっと頑張っていればなと思いました。研修前には、自分の調査テーマであるモンゴルにおける中古車の現状と廃車処理の先行研究を図書館で取り寄せてもらい、準備を進めました。

2. 研修内容 (内容、授業の感想、印象的だったことなど)

自分のテーマの調査を行うためにモンゴル大学の学生の方に協力していただきながら、様々な施設の見学や聞き取り調査を行いました。また、遊牧民の方のもとで三日間生活をするのができ、とても貴重な経験になりました。

3. 生活 (住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど)

モンゴルは、自分がイメージしていたよりも多くの車が走っていて、すごく渋滞していたのがとても印象的でした。遊牧民の方の家で飲んだ馬乳酒は、ピリピリと酸味が効いていて、おいしかったです。ヤギの肉は、体に合わなかったみたいでした。遊牧地域の夜は寒かったので、カイロを持参していてよかったと思いました。

4. 危機管理 (身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど)

スマートフォンや財布などの貴重品は、取られないようにズボンの後ろのポケットに入れることを控えました。21:00以降は犯罪が増えると聞いたので、なるべく出歩かないようにしました。

5. 留学を終えて感じること・全体的な振り返り

テーマを決めて、調査して、発表をするという初めての経験は、今後の人生で必ず役に立つものになると感じています。ゲルで遊牧をされている方と、少ない日数ですが、一緒に生活できたことも、今後忘れることはないと思います。また、調査をしていく中で、日本とモンゴルの関係はすごく深いものということを知り、今後もこの良い関係をずっと続けていくべきだと感じました。モンゴルという国をもっともっと知りたいなという気になって、また行きたいと思っています。

6. 研修費用 (さしつかえなければおおよその金額を教えてください)

| 内訳 | おおよその額 | 備考 |
|----------------|-----------|------------------------|
| 航空運賃 | 130,000 円 | |
| 海外旅行保険 | 12,000 円 | |
| 渡航先プログラム料 | 130,000 円 | 授業料、一部食費、移動費、宿泊費、入場料など |
| 食費 | 5,000 円 | |
| 交通費 | 1,000 円 | |
| その他（小遣い、通信費など） | 20,000 円 | |
| 計 | | 298,000 円 |

自由記述欄 *現地のおすすめ情報や留学エピソードなどご自由にご利用ください。写真添付なども歓迎します。

↓↓↓

遊牧地域に向かう道中で撮った写真です。



全学教養・海外研修科目報告書

記入 | 2017年 10月
所属&学年 | 法学部 4年生

| | |
|-------------|----------------|
| 留学先大学(国名) | モンゴル |
| 短期研修のプログラム名 | アジア現代事情・モンゴル研修 |
| 留学した期間 | 2週間弱 |

1. 研修前の準備(応募のきっかけや動機、申込までの準備や手続、名大での授業で行った準備)

就職活動が終わった段階で社会に出る前に、大学生でしかできないことをしたいと考え、本研修に応募しました。名大で行った研修としては、言語研修と文献調査が中心でした。研究テーマ発表の段階で、他の研修メンバーが非常に意欲的で、文献調査等の事前調査を綿密に行っていたので、強い刺激を受け、自分自身の事前調査も頑張らなくてはと思われました。事前・事後も含めて研修中すべてにおいて、研修メンバーには様々な面で助けられました。

2. 研修内容(内容、授業の感想、印象的だったことなど)

やはりもっとも印象的だったのは、遊牧民の方の家でホームステイしたことです。自分の創造する「暮らし」とは全く異なった「暮らし」で、目にするものすべてが新しく、興味深かったです。また、遊牧民のご家族が、これまで私たちのような外国人を受け入れたことがないとのことだったのに、本当に温かく迎えてくれて、「モンゴルの文化を教えたい」と結婚式にまで連れて行ってくれたり、日本語⇄モンゴル語の辞書を指差してなんとかコミュニケーションをとろうとしてくれたり、心に残るものがありました。

3. 生活(住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど)

食生活は、辛かったです。最初の遊牧民宅にお世話になった数日間はおいしく食べていたのですが、ウランバートルに戻ったくらいから、自分の体が羊肉を受け付けなくなりました。日本から「さとうのごはん」やお茶漬、お味噌汁を持って行ったのが救いでした。もし来年以降もモンゴル研修があるのであれば、持っていくべきだと伝えてほしいです。あまり自分の胃腸を過信しすぎず、無理しないことが大切だと思いました。

4. 危機管理(身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど)

幸い自分にはなかったのですが、研修メンバーのうち2人ほど、ウランバートルの街中を歩いている際に、背後からリュックのチャックを開けられそうになったことがありました。一緒に歩いていた他のメンバーが気付き、なんとか事なきを得たようでした。1人で行動せず、複数人で行動する大切さを感じました。

5. 留学を終えて感じること・全体的な振り返り

今までカンボジア・ベトナム・台湾に行ったことがあるのですが、それらと比べて最も「文化の違い」「国民性の違い」というものを感じたモンゴル研修でした。例えば土地に対する考え方など、日本人にはない発想に驚くことが多くありました。本当に目にするもの耳にするもの全てが刺激的な2週間でした。

6. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

| 内訳 | おおよその額 | 備考 |
|----------------|------------------|------------------------|
| 航空運賃 | 100,000 円 | |
| 海外旅行保険 | 10,000 円 | |
| 渡航先プログラム料 | 130,000 円 | 授業料、一部食費、移動費、宿泊費、入場料など |
| 食費 | 10,000 円 | |
| その他（小遣い、通信費など） | 10,000 円 | |
| 計 | 260,000 円 | |

自由記述欄 * 現地のおすすめ情報や留学エピソードなどご自由にご利用ください。写真添付なども歓迎します。

↓↓↓

①遊園地



意外に楽しかったのが、あまり期待せずに行った遊園地でした。ちょうど天気も薄暗く、なかなか雰囲気のあるところあったので、歩いているだけでも楽しかったです。着ぐるみがそのあたりを歩いているのですが（上記写真右）、急に流ちょうな日本語で「写真撮ろうよ！」と話しかけてきて、思わず笑ってしまいました。連れていってくれたモンゴル人学生によれば、アニメやコスプレが好きでモンゴル人だと、日本語が上手な人もいるとのこと。ジェットコースターにも乗りましたが、なかなか激しい設計になっていて首が痛くなったことも含め、非常におもしろい経験でした。

②北海道大学・滝口良先生

事前研修の文献調査で、滝口先生の論文を何本も読んでいたのですが、Twitterで検索したところ滝口先生のアカウントが見つかりました。そこで、ぜひ直接お会いしたいとメッセージを送ったところ、なんとモンゴルでお会いできることになったのです。

滝口先生はずっと私の研究テーマについてモンゴルで現地調査されている方で、何を聞いても全て答えてくださって、お話の全てが興味深かったです。そして、Twitterで突然メッセージを送ってきた見知らぬ大学生に、快く時間を割いてお話して下さったことに、感謝の気持ちでいっぱいです。

滝口先生を含め、モンゴルでお世話になった全ての方に心より感謝しています。